



日はまた昇る

令和6年4月2日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

日本人の過去の涙と苦しみが報いられることは、正しい国家の形成へ至ることである。その国民性と勤勉さは、未来を可能とするのである。

これは政治が唯一問われるのである。国家を決定するのは、政治なのである。

また、近隣諸国における戦争や国家の財政破綻があるとしても、2世議員は、その父たちのように厳然と対処する必要があるのである。

これは国家を決定するのは、唯一宰相の判断であり、決定なのである。

これは、日はまた昇るということを求める以上、現状のすべての現実と既得権益を放棄し、新しい未来を実現させる必要があるのである。

これは既得権益と既存現実の固執し未来を失いこととの選択なのである。

魚は水を得て自己を与えられるというのであり、国民は、その王を与えられ、自己を有するのである。

これは世界が新しい現実へ移行することにおける真実なのである。

既存の自己産業や社会インフラは、その可能性を自己に有するのである。

これらは、政治は2流、経済は一流という現実は、政治は存在しなく、アメリカの判断を自己とし、経済はその完全な敗戦を有するということであると考える。

これらは新しい国家システムへの移行における世界の現実への到達と産業転換、財政の健全化、独自外交への転換などにおける国家の転換を求められるのである。

これを得ない限り未来は存在しないのである。もし政治が国民へ責任を有するならば、政治の判断は必ず要求されるはずである。

